取材日：平成２５年８月９日（金）
取材先：NPO 法人　伊賀の伝丸（三重県伊賀市）
レポーター名：三重大学人文学部法律経済学科３年
辻グラウシアユキ

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

## 伊賀で多文化共生を図るＮＰＯ法人『伊賀の伝丸』

ＮＰＯ法人伊賀の伝丸は支援団体ではなく、多文化共生の中間支援である。多文化共生とは、国籍や民族の異なる人々が、互いの文化的違いを認めあい、対等な関係を築こうとしながら共に生きていくことを指し、中間支援とは、外国人が伝丸を一方的に頼るのではなく外国人が自立できるように支援をすることである。事業として通訳・翻訳・外国語講座・日本語の講座・講師派遣などがある。

通訳のうち、医療通訳は有償ボランティアとして派遣し、リーズナブルな料金を設定している。それは病院などで通訳を必要とする親が子どもを学校休ませてまで一緒に行かせないようにするためである。伝丸では、ボランティアで通訳をするときでもボランティアだから多少誤訳をしても良いという軽い気持ちはない。ボランティアでもプロとして通訳をしなくてはいけないという高い意識を持っている。また、医療通訳は、県主催の医療通訳研修の受講者や伝丸のスキルチェックに合格し登録した人しか医療通訳ができないようにしている。病院などでは医療の専門用語が難しく医療用語が分からない人が間違って通訳をしたり、通訳をしている本人が病名を分からず適当に患者に伝わることがないように、医療通訳は医療通訳の登録をしている人だけが通訳できるシステムになっている。翻訳はごみの出し方、VISA で必要な書類や行政、企業からの委託される翻訳もあり、それらもダブルチェックをし誤訳がないように徹底している。

日本語講座では、あいさつから学んでいくレベルからパソコンで履歴書を作成したり、就職のための面接練習をするなどその人が必要としている日本語能力を教えている。また、通訳・翻訳・語学講座以外でも外国出身のこどもの支援として進路ガイダンスの支援をしたり、外国人の生活相談も対応する。

以上のように伝丸さんは、通訳・翻訳・語学事業などでは、誤訳がないようにダブルチェックを行ったり、外国人が地域住民とコミュニケーションや共生するために互いを理解し合えるようにお茶会の場などを設けたり、災害が起きたときのために防災の指導をしている。具体的には、ポルトガル語、スペイン語などで説明をしたりと『伊賀の伝丸』ならではの外国人に対する防災訓練の指導をしている。このように多文化共生の中間支援をしている。

ＮＰＯ法人伊賀の伝丸の取材をして、代表の和田京子さんと副代表の菊山順子さんは海外に何年か住んでいたので外国人がどんなことに困っているのか、その国の言語が分からないときの生活への不安などを分かっているので親身になって対応しており外国人が地域住民とコミュニケー

ションを自ら図れるように、そして外国人がその地域の人と共生できるように中間支援をしていることに感動しました。また、今までは外国人が日本の高校や大学へ進学をすることがあまりなく、それは親が日本語分かっていないためだった。しかし、伝丸を通じて子どもの三者懇談や進路ガイダンスの相談をすることによって親も自分の子どもの進路について真剣になり進学率を上がったという話も聞くことができました。『ＮＰＯ法人伊賀の伝丸』の和田京子さんや菊山順子さんのような多文化共生の中間支援を熱心にする方がこれからもっと増えていければ素敵だと思いました。